

令和4年度 相生市内在学の児童・生徒による人権作品の紹介

★人権作文の部 特選受賞者と作品

考える「偏見や固定観念」

若狭野小学校 6年 野村 瑚白

私は差別をすることは絶対にいけないことだと思いません。なぜかというところ、差別をしている人はなにも思わないかもしれませんが、されている人はつらい思いをしているからです。

差別には、偏見と固定観念が大きく関わっていると思います。偏見とは、根拠がなく不公平な考え方をすること、固定観念とは、特定のイメージに凝り固まっている考え方や意識のことだと考えています。

私も偏見や固定観念で人を判断してしまったことがあります。例えば、服そうが黒く、かみを染めていたので、怖い人かなと思いましたが、実際に話してみると、すごく良い人でした。ほかに、髪が長いから女の人だと思いがちでいたことがあります。でも実際は、男の人で、長い髪が好みだと知りました。

以前、テレビで、声を変えたいと願う、声に悩む女性についての番組を見ました。声が低いので、「女性だったんですね、女性なら女性らしい声じゃないと。」

と言われたそうです。声で男性だとか女性だとか判断されて、傷つけられることがあります。また、声だけで判断されて、暗いや怖いなどと誤解されてしまうこともあるそうです。声に悩んでいる人の思いに寄り添えない人がいます。私はこれらのことから、声は人それぞれ生まれつきもっている大切なものなのに、声に対しての偏見や固定観念で決めつけをして、人を悲しませるのはよくないと思います。

特選受賞者

小学校

学校	学年	氏名	作品名
中央	1	松村 和磨	ぼくのこせい
矢野	2	山西 湊士郎	ぼくにできること
青葉台	3	長棟 俊弥	目の大切さ
那波	4	明石 莉穂	勇気を出してよかった
那波	5	船曳 朔太郎	家族の選択
双葉	5	福島 延悟	ぼくが考える人権
若狭野	6	野村 瑚白	考える「偏見や固定観念」

中学校・高等学校

学校	学年	氏名	作品名
双葉	1	宮内 友彩	「ハイト」をなくしたい
矢野川	2	杉田 怜愛	人権学習をとおして気がついたこと
双葉	3	利根 蒼生	男女平等ってなんだろう
相生高	1	藪内 瞳	今の世の中
相生産高(全)	3	前田 結里亜	十人十色

このようなことは、他にもいろいろあるはず。偏見や固定観念のせいで、つらい思いをしている人を無くすために、何かできることはないか考えました。私は、不確かな情報などで、勝手な思いこみや決めつけをしないように気を付けていきます。そして、自分の偏見や固定観念が人を傷つけることにならないか振り返ります。さらに周りの人とも差別について話し合い、差別をなくするための行動をすることを心がけます。偏見や固定観念で人を判断するのではなく、認めて、相手をよく理解するようにしたいです。

最後に、人はみんな助け合い、支え合って生きています。この世の中がもっと、人を認め合う世界になってほしいと願っています。



私は最近、男女平等とはなんだろうと思うことがよくあります。平等について、改めて考えると、難しいことなのではないかと思うようになったことがあります。

ツイッターなどのSNSで「フェミニスト」と呼ばれる、男女平等を訴える活動をしている方々がよく話題になっているのを見かけます。それ自体は、間違ったことではなく、普通のことかもしれません。しかし、近年フェミニストが悪いイメージをもたれているというのを知り、何故だろうと調べてみました。

それは、フェミニストによる行きすぎた過激な活動や言動によるものでした。その中でも特に私が「あれ？」と思ったものがいくつかあります。

例えば「おかあさんといっしょ」というテレビ番組のタイトル「おかあさん」の部分が不適切だから「保護者といっしょ」に変えてほしいというものです。これに似たもので、コンビニの「お母さん食堂」のコーナーを「保護者食堂」に変えてほしいから署名してくださいというキャンペーンもあります。私はこれらを見て、少し敏感すぎるのではないかと思います。タイトルが「おかあさん」というだけで、何も「子育ても家事も全て母親の仕事」とまでのメッセージ性は、ないのかなと思います。

他にも、アニメやマンガでのイラストの表現や描写がよくフェミニストの話題になります。おいしそうにごはんを食べる女の子のイラストが、ほっぺを赤らめているというだけで「性的搾取されている」と問題になり、SNSで大きな話題となっていました。私は元のイラストも見ましたが、何も差別的なものを感じなかったし、それは表現の自由を侵害し

ているのではないかと思います。このような悪印象をもたらされるような活動が目立って、悪い人のように感じますが、全てのフェミニストが悪いわけではなく、一部の人たちだけだということを感じてほしいです。

私もこれまでに、女性差別を感じた場面があります。例えば、相撲の土俵上で、けが人が出たとき、救護するためとつさに土俵に上がった女性が、アナウンサーの男性に「女性の方は土俵から降りてください。」と言われる動画を見かけたときです。その女性は、親切心で助けるために土俵に上がったのに、古くからの決まりというだけで降りるよう言うのは、少しひどいのではないだろうかと思いました。フェミニストの方々も、きっと同じ気持ちでその動画を見ると思います。

しかし、なぜあのような過激な集団というイメージがつくようになってしまったのでしょうか。私が思うに、はじめは誰しも「男尊女卑をなくそう」という気持ちや思いで活動していたけれど、その思いが強くなりすぎたため、攻撃の対象が「差別」から「男性」に変わってしまったのではないのでしょうか。差別をすることは決して許されないし、平等を訴えることはとても大事です。しかし、かたよりすぎる考えを訴えることは平等への道にはならないと思います。

誰もが納得できることが平等ではないのでしょうか。一人一人が考える平等とは何か。だからこそみんなで「平等とは何か」について考えて話し合えば、きっと平等になるのではないのでしょうか。私はこれからも平等について考え、多くの人と話し合い、みんなが納得できる平等を見つけれたいと思います。

